

開発事例2 | 知財業務における生成AI活用



製品開発に関する知財調査・アイデア出しの方法が根本的に変化し、
これまでになかった世界にワクワクを与えられる製品を実現できるのではないか

	これまで	生成AI時代のこれから
知財調査方法	特許等の知財を扱う専門家に外注する あるいは社内の法務部とやり取りを行う	生成AIが高速かつ安価に知財調査を実施 人は結果を踏まえ考察・再調査に注力
費用	数万円～数百万円	数十円～数百円
時間	数日～1ヶ月	数秒～数時間
追加調査	追加費用がかかり安易に依頼できない また調査に時間がかかりボトルネックに	費用・時間のボトルネックが解消され、 何回でも条件を微調整して 追加で調査結果の深掘りを実施できる